



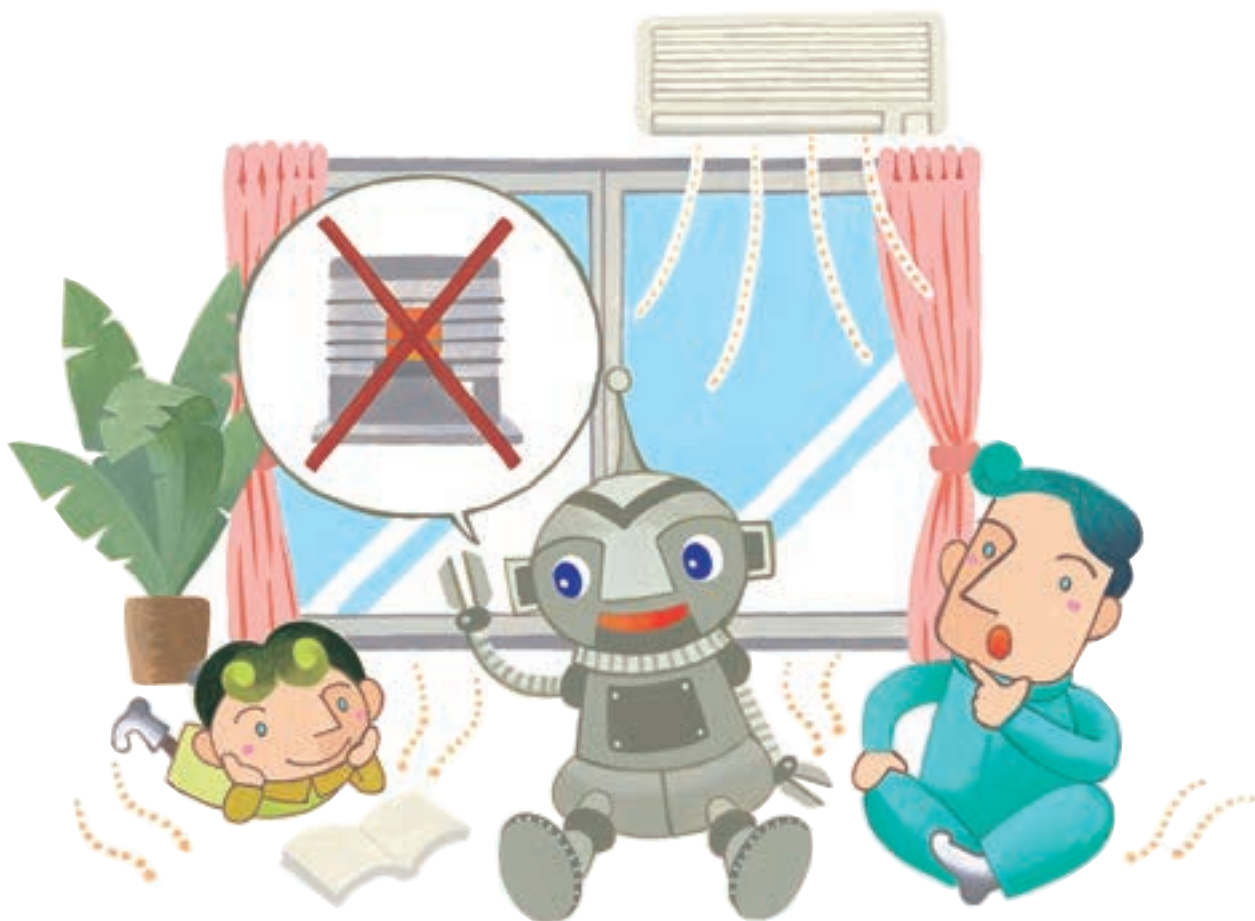
省エネルギー住宅の暮らし方は、いままでとどう違うの？



従来にない高性能な住宅の省エネルギー基準で建てた家。少ないエネルギーで、快適で健康的な生活をおくるためには、何か特別なことが必要でしょうか。答えはノーです。ほとんどいままで通りの生活と変わりません。ただし、気密性が高いため換気に配慮すること、温度と湿度の両方をチェックすることだけは、すぐれた建物の性質を活かすためにも必要です。



住宅の省エネルギー基準の「その他の留意事項」には、ガスや石油などの開放型暖房器具（ストーブやファンヒーター）については、使用しない方が良いという注意書が含まれています。



■省エネルギー住宅で快適に暮らすには、 どんなことに気をつければよいのでしょうか。

平成11年省エネルギー基準が導入されて、住宅のあり方はどう変わるのでしょうか。良い住宅に求められる基本条件が、まず「夏涼しく冬暖かいこと」であるならば、住宅の省エネルギー基準に添った住まいならば、断熱気密化が飛躍的に向上しますので、どなたでも満足していただけることと思います。一方、こうした住宅性能の向上は、結露や室内の空気汚染にも配慮しなければならないということにつながります。従来のように、隙間風によって自然に換気できる開放的な住空間で慣れ親しんできた生活習慣をそのまま持ち込むことはできません。例えば、結露を防ぐには、室内で水蒸気を過剰に発生させないことや、燃焼ガスを室内に放出する開放型の暖房器具を使わないといったことが大切になります。

■開放型のストーブは使わない。 洗濯物は、室内に干さない。

開放型のストーブというのは、室内で燃料(石油やガス)を燃やして室内を直接暖めるタイプのもので、こうした暖房器具は運転中、排気ガスと水蒸気が絶えず室内に出ますので、空気が汚れるだけでなく、結露の原因にもなります。暖房器具を選ぶ際には、かならず排気を屋外に出すタイプのものでお選びください。また、洗濯物を大量に室内に干すというものであれば避けたい事です。どうしても、室内で大量に干す必要がある時は、換気扇をまわして排気しながら干してください。室内で大量の水蒸気を出さないというのは、結露を防ぐための知恵です。室内で長期間、高湿度が続くことはカビやダニの発生原因にもなりますので、ぜひご注意ください。

！ 湿気の発生源には注意が必要です。梅雨時など外に洗濯物が干せない場合でも、室内に大量に干すことはおすすめできません。乾燥機や浴室乾燥機などが便利です。

